

渡り鳥保全調査報告 1994年度

－鳥獣保護区の鳥類相Ⅲ－*

福井県自然保護センター¹

はじめに

人間活動と自然保護の調整は難しい問題であるが、行政としては、野生生物保護のために生息環境の保全や保護区の設定などを行なうことが必要である。そのためには、科学的データが不可欠であり、少なくとも基礎となる生物相を把握しておくべきであろう。

福井県では、県内に生息する鳥類相を明らかにするために、1969年度よりガンカモ科鳥類生息調査を、1977年度より渡り鳥保全調査を継続している。これらのうち渡り鳥保全調査は、各年度に対象種や環境を変えて実施されている。1985年度までは冬期の鳥類相について、1986年度から1990年度までは山麓部森林の鳥類相について、1991年度は都市部の鳥類相について調査されてきた(福井県野鳥保護協会 1979, 1980, 福井県鳥獣保護センター友の会 1981, 1983, 1986, 福井県県民生活部自然保護課 1989, 福井県自然保護センター 1993, 1994)。しかし、鳥類の保護を行政に反映させるには、鳥獣保護区でのモニタリング調査が直接的であり、より有効である。1992年度は主に山地森林部に設定された鳥獣保護区で、1993年度は山地森林部および湖沼・河川に設定された鳥獣保護区で調査された(福井県自然保護センター 1995a, 1995b)。今回も、1992年度、1993年度と同様に鳥獣保護区の鳥類相とその繁殖状況について調査してみた。

調査地と方法

調査は、1994年5月8日～7月9日の夏期と1994年11月12日～1995年3月23日の冬期に、福井県内の16カ所の鳥獣保護区で行なった(図1, 表1)。調査地内に2.0～6.0kmのラインを設定し、鳥類が出現しやすい朝方に歩いて、出現したすべての鳥類の種と片側25mの幅50m内の個体数を記録した。また、営巣、育雛、巣立ち雛を確認した場合に繁殖していると判断した。

結果と考察

記録された種とその学名および観察密度を表2に掲載した。

* 福井県自然保護センター研究業績 第32号

1. 〒912-01 福井県大野市南六呂師169-11-2

執筆者：大迫義人

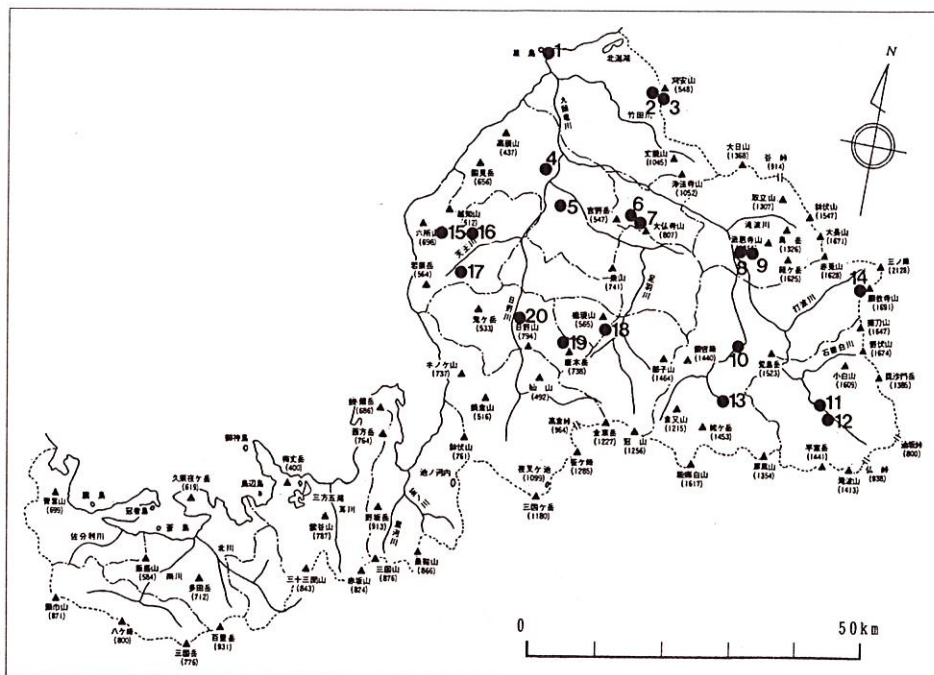


図1.調査地の位置図.

Fig. 1. Location of the study areas.

表1. 1994年度の渡り鳥保全調査の概要.

Table 1. Study areas, observers, dates and general results of the fiscal 1994 bird census.

鳥獣保護区 ¹ Wildlife Protection Area	メッシュ番号 ² Mesh number	調査者 Observer	調査日 Dates		調査距離 (km) Route length		種数 No. species		個体数 No. individuals	
			夏期 Summer	冬期 Winter	夏期 Summer	冬期 Winter	夏期 Summer	冬期 Winter	夏期 Summer	冬期 Winter
1. 東尋坊	693, 694	阪本周一	7/ 2	1/16	2.5	3.0	16	23	142	413
2. 刈安1	428, 429	池崎和男	6/18	11/12	5.0	4.7	23	18	150	319
3. 刈安2	394, 395	古畑重義	7/ 5	2/ 3	4.0	6.0	14	12	50	24
4. 大安寺	660, 623	柳町邦光	5/ 8	12/11	3.0	3.0	23	17	104	46
5. 福井	590, 625, 626	柳町邦光	6/ 3	2/11	4.0	2.5	16	16	192	72
6. 永平寺1	404	榎本二郎	6/ 1	11/30	2.0	2.0	13	9	70	18
7. 永平寺2	376, 377	榎本二郎	6/ 2	12/ 1	2.0	2.0	9	5	23	9
8. 平泉寺1	207	中井信介	6/ 1	3/23	4.8	4.8	28	21	152	207
9. 平泉寺2	183	中井信介	6/ 2	12/22	3.5	3.1	19	14	70	31
10. 真名川ダム	214	中井信介	5/31	1/19	5.2	5.2	25	14	116	100
11. 九頭竜ダム1	66, 67	中井信介	6/ 7	1/19	3.9	3.9	25	15	82	35
12. 九頭竜ダム2	50	中井信介	6/ 8	12/12	5.2	5.2	31	16	138	85
13. 笹生川ダム	194, 195	中井信介	6/ 4	12/ 2	6.0	6.0	33	25	117	204
14. 願教寺	56	坪内和夫	5/14	11/13	3.0	2.0	22	8	100	52
15. 織田	850, 851	門前孝也	6/ 4	11/23	3.0	3.0	18	14	55	44
16. 朝日	748	吉田一朗	6/ 4	12/23	3.7	3.7	20	18	98	75
17. 宮崎	790	吉田一朗	6/ 1	1/29	3.3	3.3	16	12	97	38
18. ハツ杉	448	横山大八	6/25	1/ 3	3.5	3.0	19	10	185	39
19. 越前の里	524, 563	横山大八	7/ 9	1/28	3.0	2.6	26	19	138	240
20. 村国山	635	高田雄治	6/ 5	1/29	4.0	3.3	22	17	141	32
計20カ所			計11人		計40日		計10目27科83種			

1: 図1を参照.

2: 福井県自然環境管理計画でもちいるメッシュ番号.

計10目27科83種の鳥類が記録された(表2)。福井県産の鳥類は、1994年までに18目58科303種が記録されているが(日本野鳥の会福井県支部 1995)、今回は種数で27.4%が記録されたことになる。これらのうち環境庁指定の「日本の絶滅のおそれのある野生生物」の絶滅危惧種のクマタカが刈安、永平寺各鳥獣保護区で、危急種のミサゴが刈安鳥獣保護区で、オオタカが越前の里、村国山各鳥獣保護区で、希少種のチュウサギが刈安、越前の里各鳥獣保護区で、オシドリが九頭竜ダム、越前の里各鳥獣保護区で、そしてハイタカが刈安鳥獣保護区で記録された。

また、計4目16科25種の鳥類の繁殖が確認された(表2)。しかし、夏期に観察された種は、その確認がなくても繁殖の可能性はある。

すべての鳥獣保護区で記録されたものはヒヨドリとシジュウカラで、以下、75.0%より高い観察頻度で、高かった順にウグイス、ホオジロ、ヤマガラ、メジロ、キジバト、ハシボソガラス、コゲラ、エナガ、ハシブトガラスであった。これらのうちヒヨドリ、メジロは福井県では漂鳥で、他はすべて留鳥であった(福井県 1982)。

最も記録種数の多かった調査地は笹生川ダム鳥獣保護区で、計45種が記録された。次いで九頭竜ダム鳥獣保護区(計43種)、平泉寺鳥獣保護区(計42種)、刈安鳥獣保護区(計40種)、越前の里鳥獣保護区(計36種)、そして真名川ダム鳥獣保護区(計35種)などが続いた。調査日時の設定や調査者の識別能力の違いによる差も存在するが、概して山間部にある鳥獣保護区で記録種数が多かった。

現在、各調査地での調査日数は、夏期と冬期の計2日だけであり、生息種を明らかにするには不十分であり、さらに、種の識別や繁殖状況を明らかにするには、標識調査も含めた精密な調査が必要である。また、鳥獣保護区は、鳥獣の保護・繁殖の目的で設定されたものであり(福井県 1992)、そのためには、調査・管理の体制も整備することが求められる。

謝 辞

現地調査を11人の方に行なっていただいた(表1)。ここに記して感謝する。

要 約

1994年度の夏期と冬期に、福井県内の計16カ所の鳥獣保護区で鳥類相と繁殖状況を調査した。のべ40日の調査で計10目27科83種の鳥類が記録され、計4目16科25種の鳥類の繁殖が確認された。これらのうち環境庁指定の「日本の絶滅のおそれのある野生生物」の絶滅危惧種のクマタカが刈安、永平寺各鳥獣保護区で、危急種のミサゴが刈安鳥獣保護区で、オオタカが越前の里、村国山各鳥獣保護区で、希少種のチュウサギが刈安、越前の里各鳥獣保護区で、オシドリが九頭竜ダム、越前の里各鳥獣保護区で、そしてハイタカが刈安鳥獣保護区で記録された。これからはこれらの貴重種の保全も含め、鳥獣保護区設定の目的を達成するために調査・管理ができるような体制を作ることが必要であろう。

* : 繁殖の確認された調査地

[illegible]

引用文献

- 福井県. 1982. 福井県の鳥獣. 240pp. 福井県.
- 福井県. 1992. 第7次鳥獣保護事業計画書. 51pp. 福井県.
- 福井県鳥獣保護センター友の会. 1981. 昭和55年度渡り鳥保全調査報告書. 17pp. 福井県.
- 福井県鳥獣保護センター友の会. 1983. 渡り鳥保全調査報告書～昭和56年度及び57年度の記録～. 8pp. 福井県.
- 福井県鳥獣保護センター友の会. 1986. 渡り鳥保全調査報告書～昭和58年度から60年度までの記録～. 10pp. 福井県.
- 福井県県民生活部自然保護課. 1989. 渡り鳥保全調査報告書～昭和61年度から63年度までの記録～. 10pp. 福井県.
- 福井県自然保護センター. 1993. 渡り鳥保全調査報告-1989年度・1990年度-. Ciconia 2: 1-13.
- 福井県自然保護センター. 1994. 渡り鳥保全調査報告 1991年度-都市鳥の生息状況-. Ciconia 3:1-7.
- 福井県自然保護センター. 1995a. 渡り鳥保全調査報告 1992年度-鳥獣保護区の鳥類相 I -. Ciconia 4:1-8.
- 福井県自然保護センター. 1995b. 渡り鳥保全調査報告 1993年度-鳥獣保護区の鳥類相 II -. Ciconia 4:9-16.
- 福井県野鳥保護協会. 1979. 昭和53年度渡り鳥保全調査報告書. 12pp. 福井県.
- 福井県野鳥保護協会. 1980. 昭和54年度渡り鳥保全調査報告書. 15pp. 福井県.
- 日本野鳥の会福井県支部. 1995. 1994年までの福井県産鳥類目録. つぐみ (100):28-39.

Avifauna of Wildlife Protection Areas in Fukui III
-Result of the fiscal 1994 bird census-

Fukui Nature Conservation Center¹

The avifauna and breeding status were studied at a total of 16 Wildlife Protection Areas (Hereafter abbreviated to W.P.A.) in Fukui in 1994. A total of 83 bird species of 27 families of 10 orders was recorded for a total of 40 days in summer and winter, of which breeding behaviours were observed in 25 species of 16 families of 4 orders. There were recorded Mountain Hawk Eagles at Kariyasu and Eiheiiji W.P.A. as endangered species that Environment Agency has registered; Ospreys at Kariyasu W.P.A. and Northern Goshawks at Echizenosato and Murakuniyama. W.P.A. as vulnerable species; Intermediate Egrets at Kariyasu and Echizenosato W.P.A., Mandarin Ducks at Kuzuryudamu and Echizenosato W.P.A. and European Sparrow Hawks at Kariyasu W.P.A. as rare species. The avifauna including these species should be monitored and conserved.

1. Minamirokuroshi 169-11-2, Ono-shi, Fukui 912-01

Written by Yoshito Ohsako

